



TITLE:

<記事>1.概要

AUTHOR(S):

CITATION:

<記事>1.概要. 瀬戸臨海実験所年報 2003, 16: 2-2

ISSUE DATE:

2003-12-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/179023>

RIGHT:

1. 概 要

□平成14年度

◎職員等の移動

- ・ Yu, Ok Hwan 氏を日本学術振興会外国人特別研究員として受入(平成14年4月1日)。
- ・ 下出信次氏を教務補佐員として受入(平成14年10月1日)。
- ・ 飯島実氏を研究支援者として受入(平成14年12月1日)。
- ・ 伊谷結氏・伊谷行氏・下出信次氏が退所(平成15年3月31日)。
- ・ 飯間昭彦事務官が工学部事務部経理課第四経理掛へ転出、新井伸一事務主任が化学研究所司計掛から着任(平成15年4月1日)。
- ・ 飯島実氏・加藤哲哉氏・佐藤剛毅氏を教務補佐員として受入(平成15年4月1日)。
- ・ 奥山牧子氏を日本学術振興会奨励研究員として受入(平成15年4月1日)。
- ・ 小林亜玲氏が博士前期課程に入学(平成15年4月1日)。

◎行事・来訪者等

- ・ 国立大学臨海臨湖実験所長会議(春季)(於お茶の水女子大学, 東京)、白山義久所長出席(平成14年4月22日-4月23日)。
- ・ 研究補助者として、和田麻里氏(九州大学リサーチアソシエイト)来所(平成14年9月1日-)。
- ・ 在外研究者として、久保田信助教授がイタリアへ出張(平成14年9月14日-11月13日)。
- ・ 国費留学生として、Desai, Ridita 氏(National Institute of Oceanography, インド)来日(平成14年9月30日-)。
- ・ 国立大学臨海臨湖実験所長会議(秋季)及び国立大学臨海臨湖実験所公開臨海実習検討会(於お茶の水女子大学館山臨海実験所, 館山)、宮崎勝己助手出席(10月28日-10月29日)。
- ・ 共同研究者として、Arwut, Kaenphet 氏(Walailak University, タイ)来所(11月25日-平成15年1月24日)。
- ・ 瀬戸臨海実験所年報15巻発行(12月25日)。
- ・ 水族館休館(平成14年12月29日-平成15年1月3日)。
- ・ 水族館開館(1月4日)。
- ・ オーストリア・ウィーン大学との学術交流協定に基づく派遣研究者として、宮崎勝己助手がオーストリアへ外国出張(1月10日-2月10日)。
- ・ 拡大運営協議会(於京都大学理学研究科)(1月31日)。
- ・ 総務省行政評価局による国有財産の管理等に関する立入検査(2月7日)。
- ・ 人事院近畿事務局による服務関係の立入検査(2月21日)。
- ・ Publication of the Seto Marine Biological Laboratory 第39巻4/6号発行(3月31日)。

2. 臨 海 実 習

□平成14年度

例年の通り、京都大学理学部をはじめ諸大学の臨海実習が下記の通り実施された。

(大学・実習科目・実習期間・受講学生数)

京都大学理学部生物系臨海実習	I	8/6-8/13	延	56人・日
京都大学理学部生物系臨海実習	I	9/6-9/13	延	120人・日
京都大学理学部生物系臨海実習	II*	3/12-3/18	延	84人・日
京都大学理学部生物系臨海実習	III*	3/23-3/28	延	42人・日
京都大学理学部生物系臨海実習	IV	8/6-8/13	延	40人・日